



里山のバラ園へようこそ！ 滝ノ入・ローズガーデン

滝ノ入・ローズガーデンが現在の場所に移動して、2年目をむかえ、植えかえられたバラもすくすくと成長してきました。

地元の人たちを中心に大切に育てられてきたバラがここまでいたる道程には、それまで携わってきた多くの人たちの努力があります。

滝ノ入・ローズガーデンは、滝ノ入地区の人たちを中心にしたボランティアにより、約10年前に滝ノ入625番地1で始められました。このバラ園は、遊休農地の有効活用を図り、地域の活性化につなげようとすることを目的とした「もろもろ町おこし事業」の一環として行われました。面積は約1500平方メートルの土地に約160種1200株のバラが植えられ、毎年多くの人が来園していました。

しかし、年々多くなる来園者により美しくバラを見せるために、バラの特性をもっと活かし、バラと周りの景色の調和がとれたバラ園を

作りたいとの構想が次第にふくらむようになっていきました。そこで、ボランティアの皆さんにより、長年培った土地を離れ、ゆずの里オートキャンプ場の脇、滝ノ入910番地に移転することが決められました。



そして、移転が始まった・・・

バラ園の移転作業が本格的に行われたのは平成20年の秋でした。その年の春までは、以前の場所でのバラ園が行われていましたが、翌年の春の新しい場所でのオープンを目指し、1年という限られた期間での移転に踏み切ったのです。

移転の準備が始められたのは、平

成18年の春からでした。移転先の土地に土を入れて、バラが育つことに適した環境を整えるところから始められ、その年の秋にニセアカシアや新たに育てるツルバラなどが少しずつ植えられました。平成19年には、エゴノキやヤマボウシなどの木や不足していたバラも

植えられ始め、その形が少しずつ見えてくるようになってきました。全体のレイアウトは、皆の意見を取り入れ、周囲の景色との調和をとりながら作られていきました。平成20年の春、以前のバラ園が終わるとともに根切りや結束、剪定が行われ、移転作業の準備が本格化しました。そして、その年の12月、約3日間で全てのバラが一気に現在のバラ園に運ばれました。このような短期間での作業を可能としたの

は、役割分担をきちんと行い、作業を計画的に進めるボランティアの皆さんの結束力があったためでした。平成21年の春、来園者に心地よくバラ園を訪れてもらうためにボランティアの皆さん総出で柵が作られ、庭園の整備が急ピッチで行われました。そうした多くの人の努力もあり、平成21年5月、滝ノ入・ローズガーデンは、新たな場所での第一歩を踏み出すことができました。



春に根切りや結束、^{せんてい}剪定をされていたバラは平成20年12月、小型重機を使って、一気に掘られ、すぐに新天地へと運ばれました。

運ばれてきたバラは、地元の人たちとボランティアの皆さんの手によって、決められた場所へと次々と植えられていきました。



そのころ、正面アーチも大型のクレーン車によって運ばれ、現在の位置へと据え付けられました。

平成21年春、開園前の最後の仕上げとして地元の人たち、ボランティアの皆さん総出で柵などが作られ、来園者を迎える準備が整えられました。



最後の庭園の整備が終れば、花が咲くのを待つだけです。そして、平成21年5月に滝ノ入・ローズガーデンは、新たな土地でオープンしました。

写真提供：滝ノ入・ローズガーデン、毛呂山中央テレビ共聴組合

やがて、努力は花開く



平成21年5月に新たにオープンした滝ノ入ローズガーデン



平成21年5月、地元の人たちとボランティアの皆さんの努力の結果、短期間での移転作業が無事に終わり、滝ノ入・ローズガーデンは現在の場所で開催しました。敷地面積約3000平方メートルの土地に約400種1500株のバラが植えられ、里山の景観と調和がとられた美しいバラ園になりました。

「実際にバラが咲いてみるまでは、土地に根付くだろうか、きれいに咲いてくれるだろうかなど多くの不安がありました」と作業を行った人にも不安の気持ちがあったそうです。しかし、訪れた人から「自然がいっぱいあって素晴らしい」「平地のバラ園とは違った雰囲気がある」などとの感想を受け、胸をなでおろしたということです。

里山の自然という景観を最大限に活かし、その景色と一体に楽しむことができるバラ園ができあがり、昨年は、多くの人が訪れました。そこには、バラ園に携わった多くの人の努力が大きく関わっています。ボランティアのひとりには、「訪れた人が喜んでくれることが、なよりの励みになり、やる気にもつながります」と話してくれました。「努力」することと「来園者の喜び」が結びついたことで、そこに「続けていく楽しみ」という効果をもたらしたといえるのではないのでしょうか。

「実際にバラが咲いてみるまでは、土地に根付くだろうか、きれいに咲いてくれるだろうかなど多くの不安がありました」と作業を行った人にも不安の気持ちがあったそうです。しかし、訪れた人から「自然がいっぱいあって素晴らしい」「平地のバラ園とは違った雰囲気がある」などとの感想を受け、胸をなでおろしたということです。

皆さんに喜んでもらえることが、何よりの励みになります。

「滝ノ入・ローズガーデンは、里山の景観を活かしたバラ園です。鳥のさえずりや、川のせせらぎなど、景色を楽しみながらゆっくりとバラを鑑賞できる場所です。私たちボランティアも来た方に心から楽しんでもらい、来てよかったと感じてもらえれば、本当に嬉しく思え、何より励みにもなります。」



滝ノ入・ローズガーデンの皆さん

ぜひ、多くの人に見に来てもらいたい！



パーゴラ（木組みの棚）の上で咲き、頭上に垂れて咲くツルバラや脇に咲くイングリッシュローズの芳しい香りもお勧めです。



正面アーチに絡まるバラは、昨年より成長しました。正面アーチの先にあるバラのトンネルには、人気のピエールドロンサルが咲き誇ります。



芝生サイトの中心にあるオベリスク（木製の塔）に絡まるバラも成長し、他の草花と多品種のバラの競演も見所です。



今年は、バラ園全体を見渡せる位置にウッドデッキが作られました。ここから眺める里山の景色は必見です。

今年のバラ園は、昨年よりバラが見事に成長しています。正面アーチや園内のパーゴラ（木組みの棚）、園奥の芝生サイトもその美しさを増しています。また、来園者がより身近にバラを愛でてもらえるように小路も増やし、その香りや美しさを近くで感じられるための工夫もされました。さらに、バラ園全体を見渡すことができる場所に新たにウッドデッキを設置しました。その場所を活用したいイベントなどの企画も考えられています。

「バラは手間がかかりますが、手間をかけた分、美しく咲いてくれます。年輪を重ねれば重ねるほど充実したバラ園へと育っていきま

す。コツコツと努力をすれば、結果は必ずついてきます」とボランティアのひとりが語ってくれました。今後のバラ園の成長も楽しみのひとつです。



また、滝ノ入・ローズガーデンは、多くの人に支えられ、育ってきたバラ園です。バラの品種や育成方法などについて、何も分らないところから始められたバラ園を育ててきた地域の人やボランティアの人との触れ合いも、滝ノ入・ローズガーデンの楽しみでもあります。

今年のバラまつりは、5月22日(土)から6月6日(日)まで開催されます。滝ノ入・ローズガーデンは、地域の人たちの力とボランティアの人たちの力で丹精こめて育てられたバラが咲き誇る里山の自然に包まれたバラ園です。あなたもこのバラ園でバラの香りに癒されませんか？

問 毛呂山町観光協会（役場産業振興課商工観光係） ☎2951 2112 内線175

